

魔術

夏野
海



私を乗せた
人力車は！

カッパッ

カッパッ

ある時雨の振る
晩のことです



やっと竹藪に
囲まれた
小さな西洋館の
前に幌車を
下ろしました

ザア——マ

何度も
大森界隈の
上った坂を
下りたりして



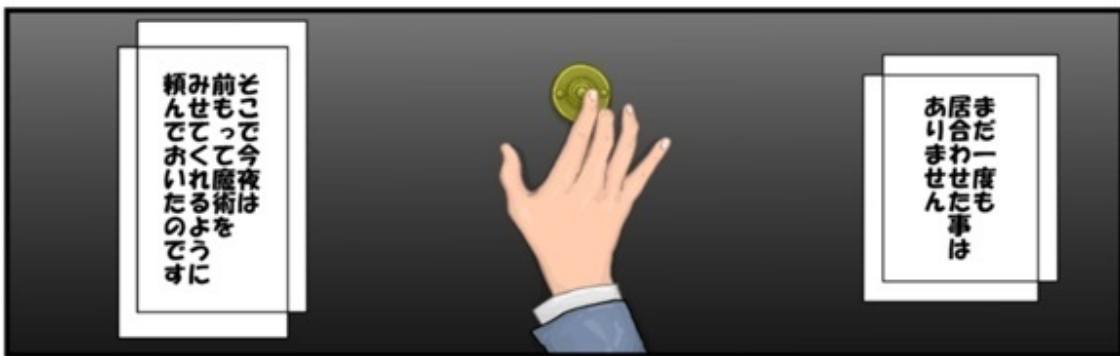
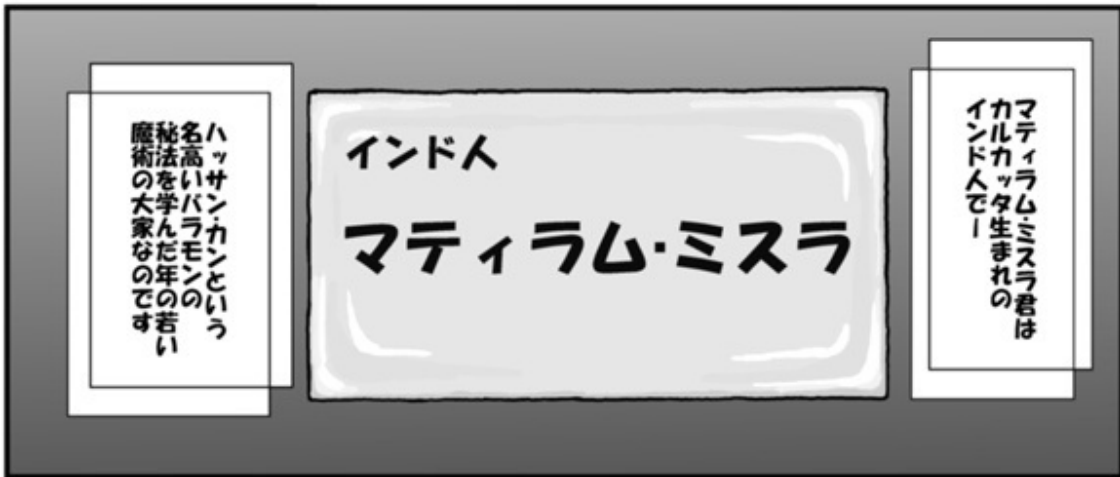
お客様！
着きましたよ

ザア……



ザア……

ああ……
ありがとう





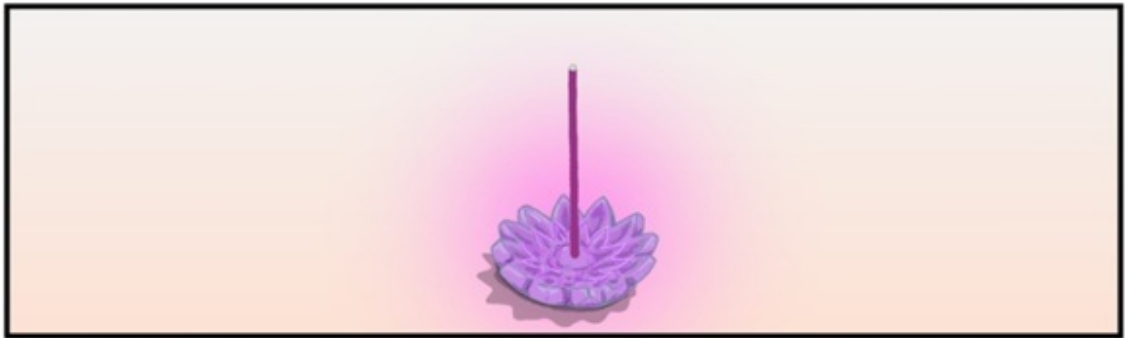




ザア...



お紅茶を
しましたよ



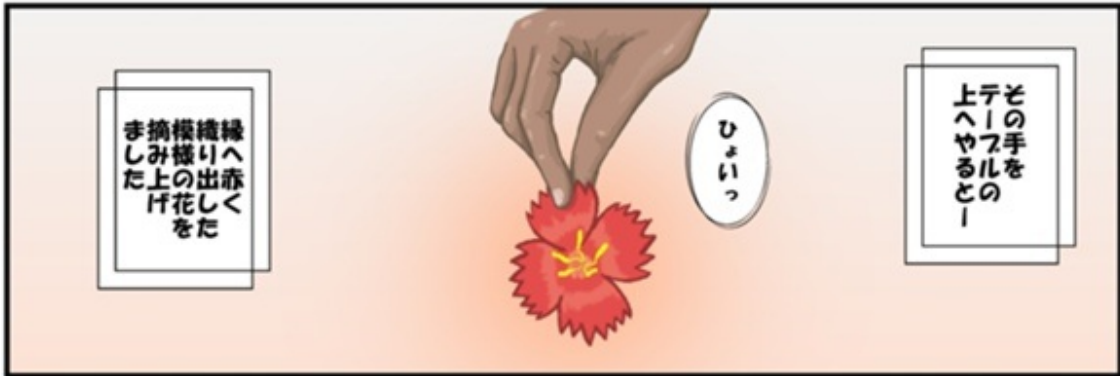
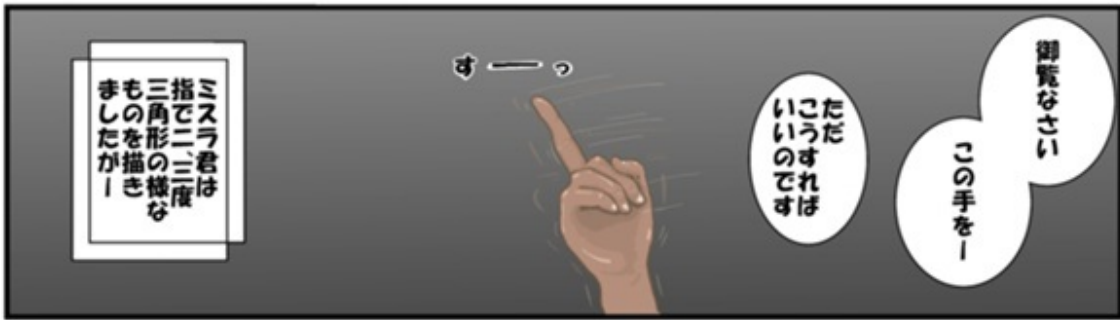
いい香り



どうですか？

この香り





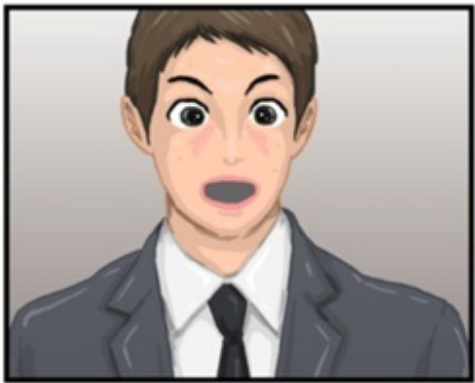


摘み上げる
どころか
花びら一つ
自由に
動かさなく
なってしまう
ので

花はミスラ君の
手を離れると
また元の通り
横様になった
て！



今度は
このランプを
御覧なさい

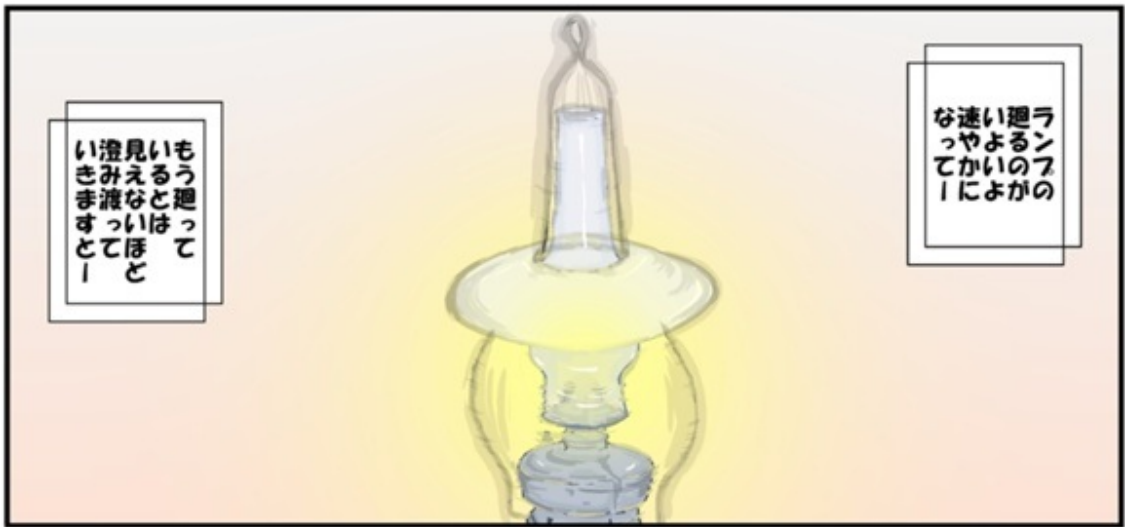
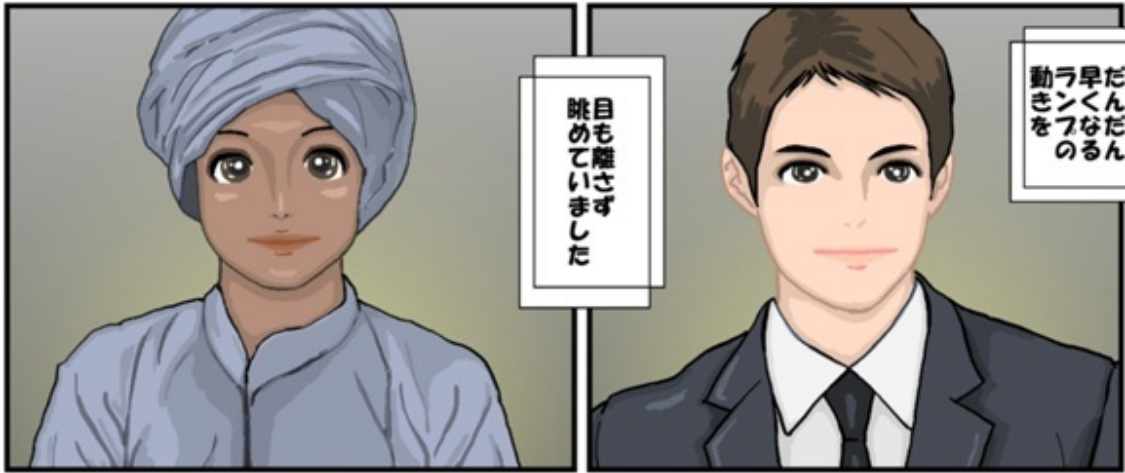
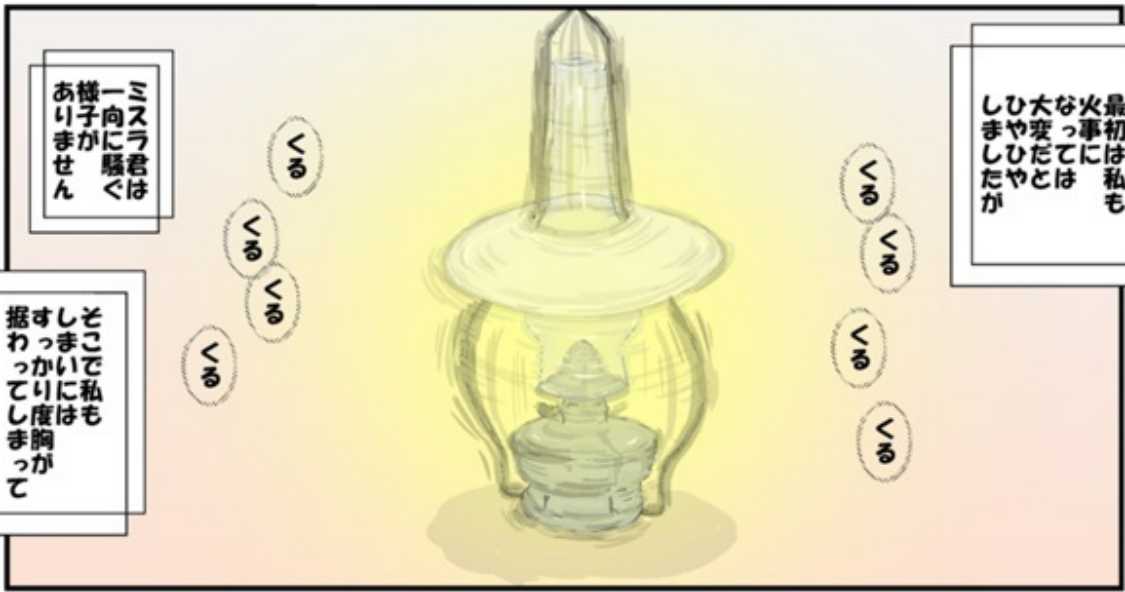


どうです
しょう



そう言って
ミスラ君は
テイルの
上を直した

その拍子に
どのうかが
ラマンの
ググル
廻り始め
ました





テールの上
に据わって
いました

いつの
かの
前問
のよ
うに



それとも
あなたが
お望みな
らう

もう一つ
何かご覧
に入れま
しょう

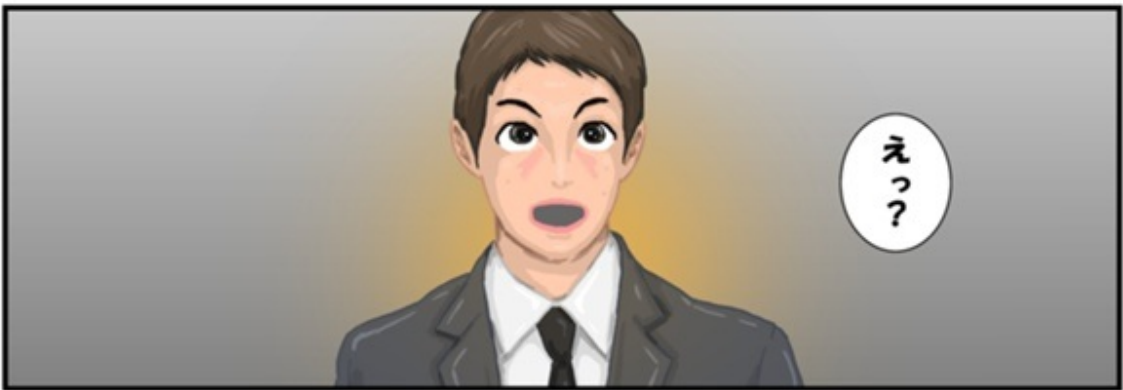
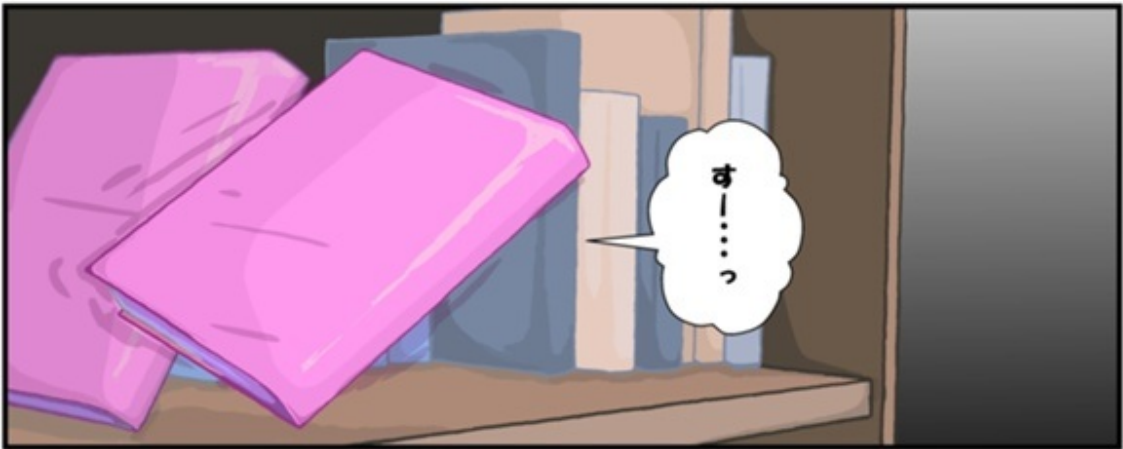
驚きましたか？
こんな事は
ほんの子供
だけです

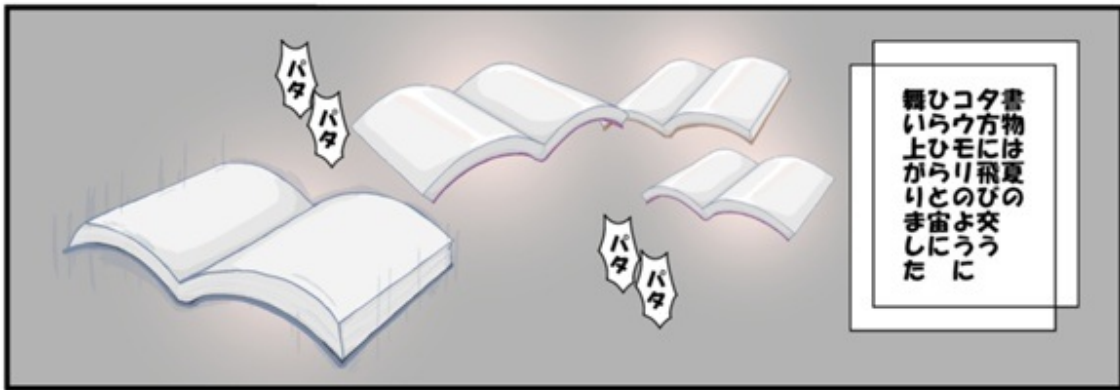


ミスラ君は
壁際の書棚を
眺めて



くるっ





書物は夏の
夕方飛び交う
ように
コウモリが
ひらひらと
舞い上がり
ました



やがて
一冊づつ
積み重なって
ー

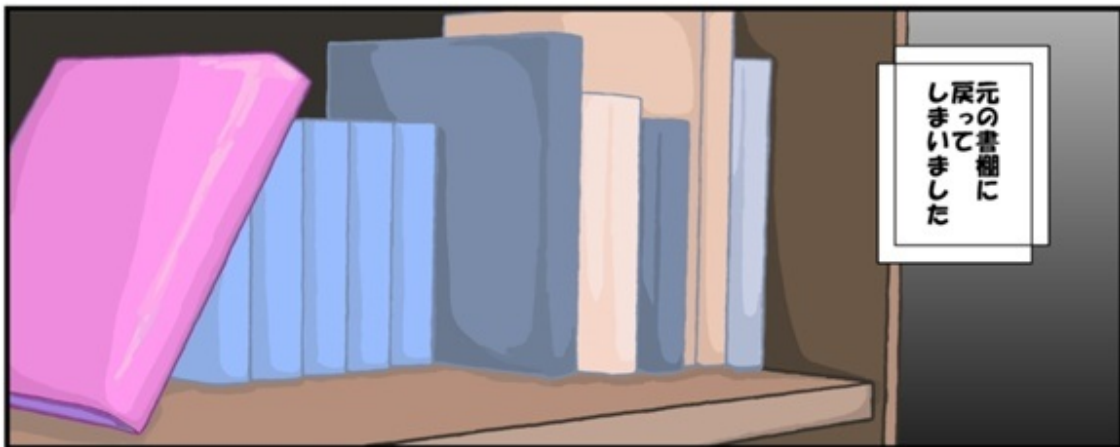
書物は薄暗い
ランツの光の中
自由に飛び回っ
て
いまは
自由が



しかし直ぐに
また動き出して



宙にういたま
ま
ピラミッド型に
なりました

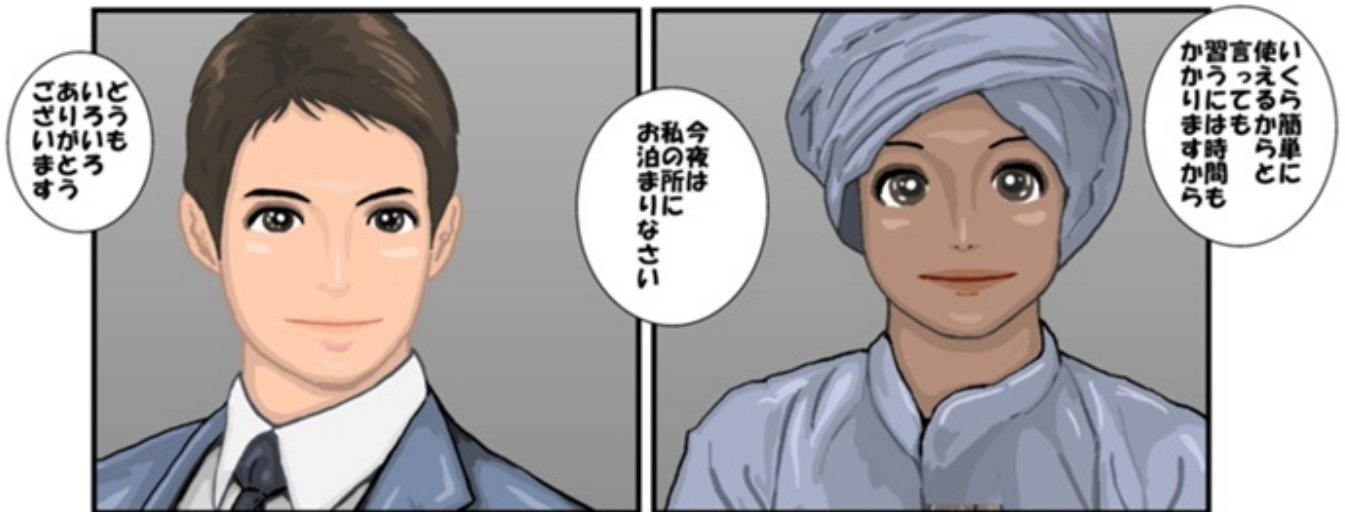


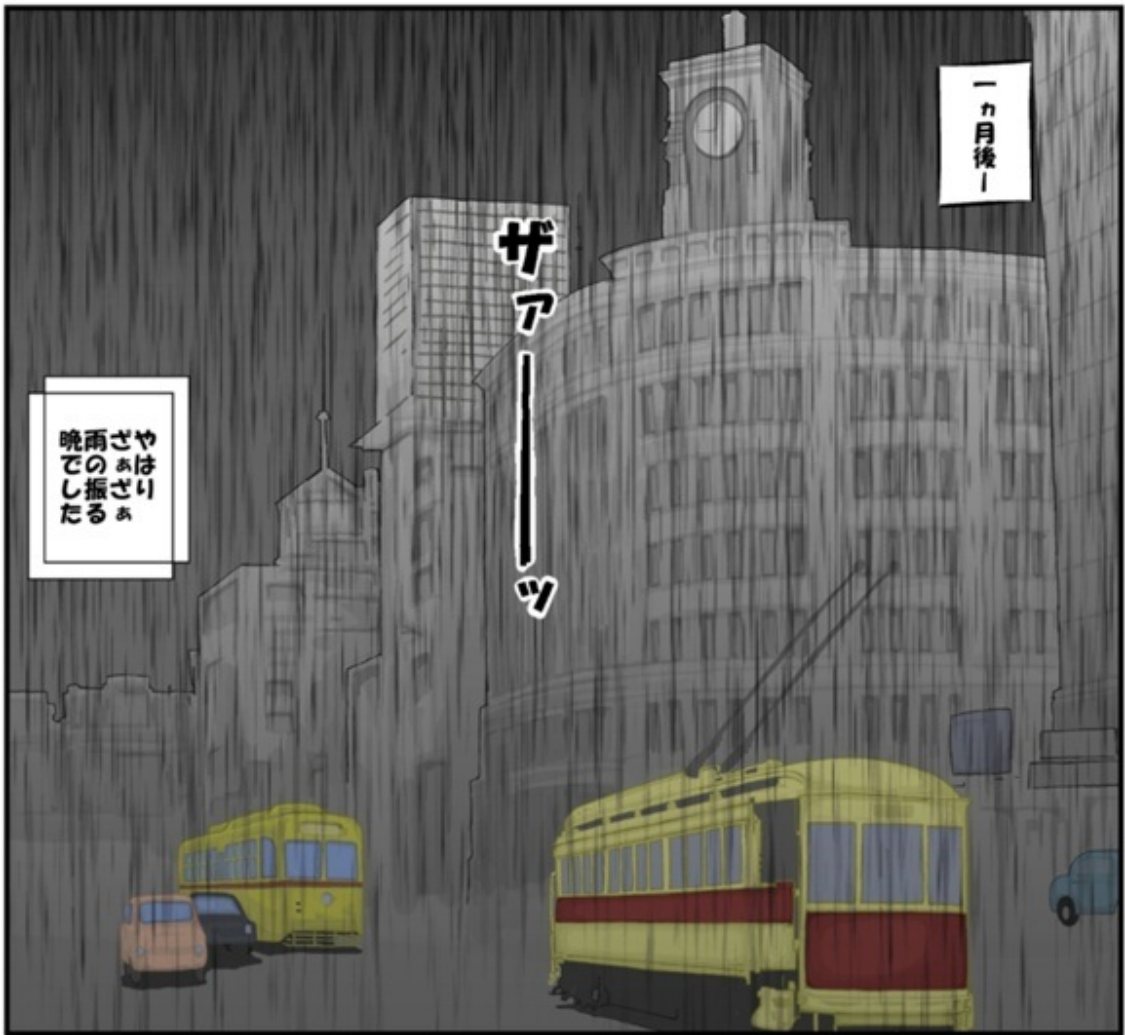
元の書棚に
戻して
しましました

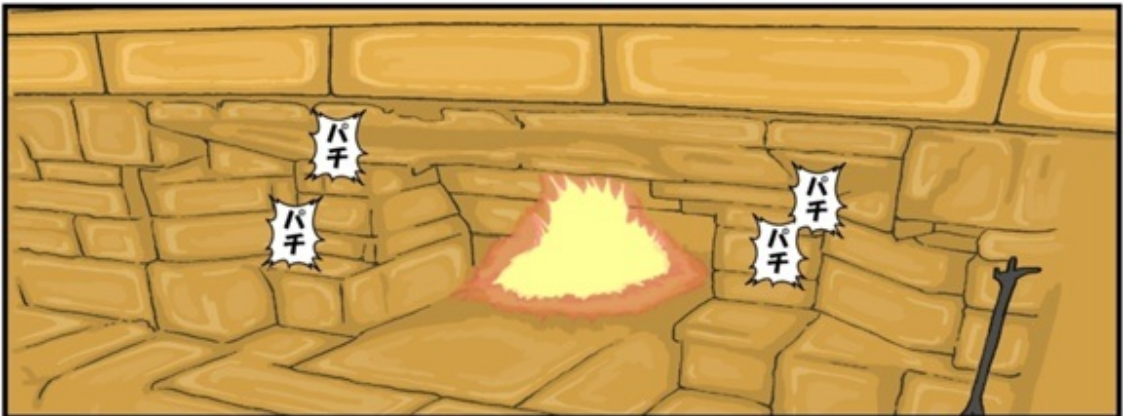




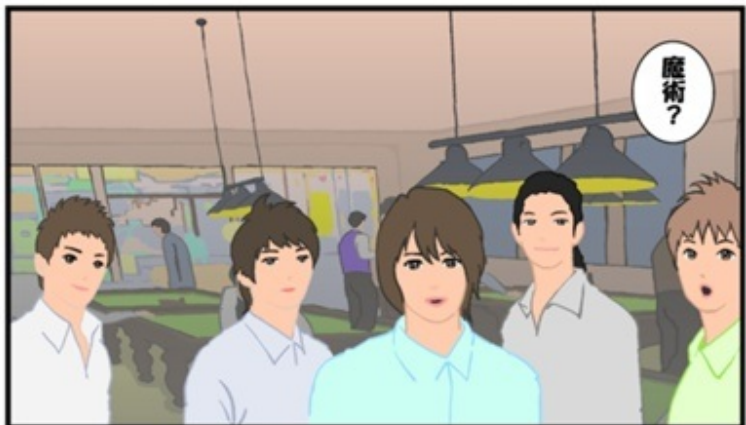


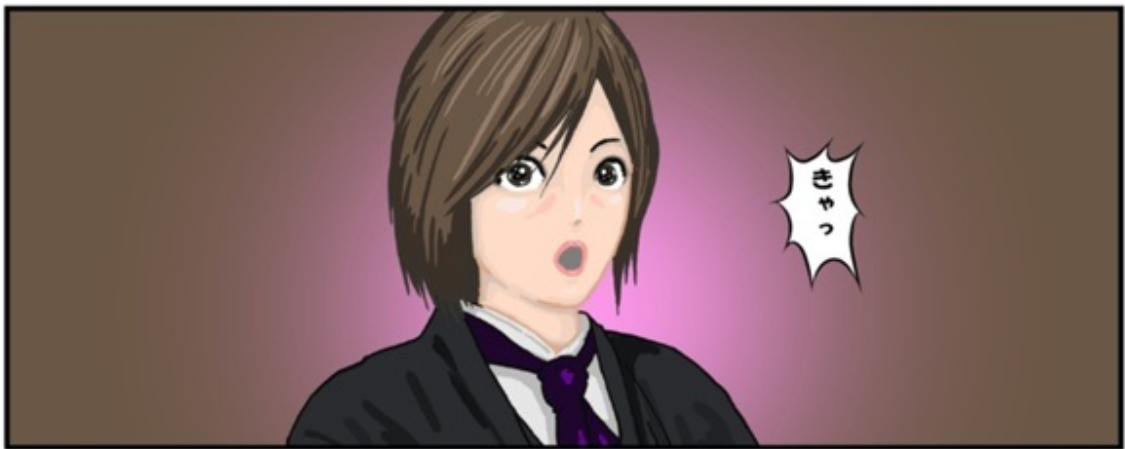
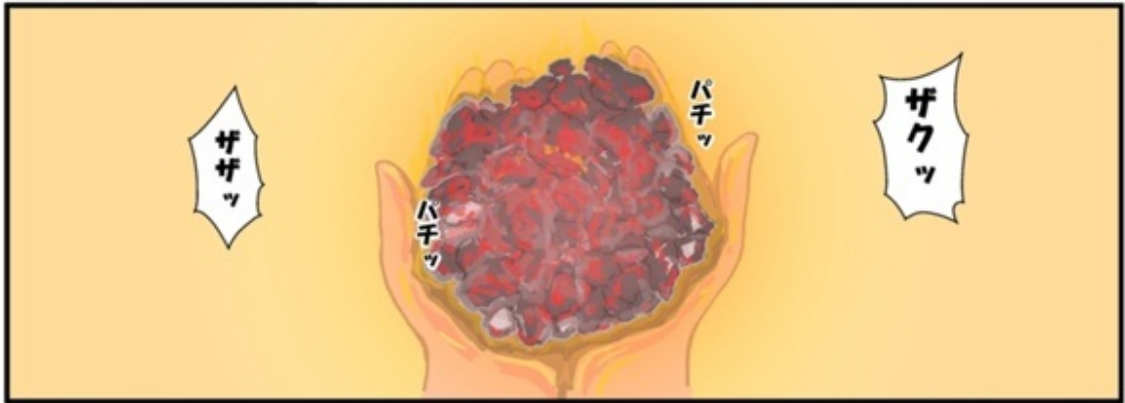


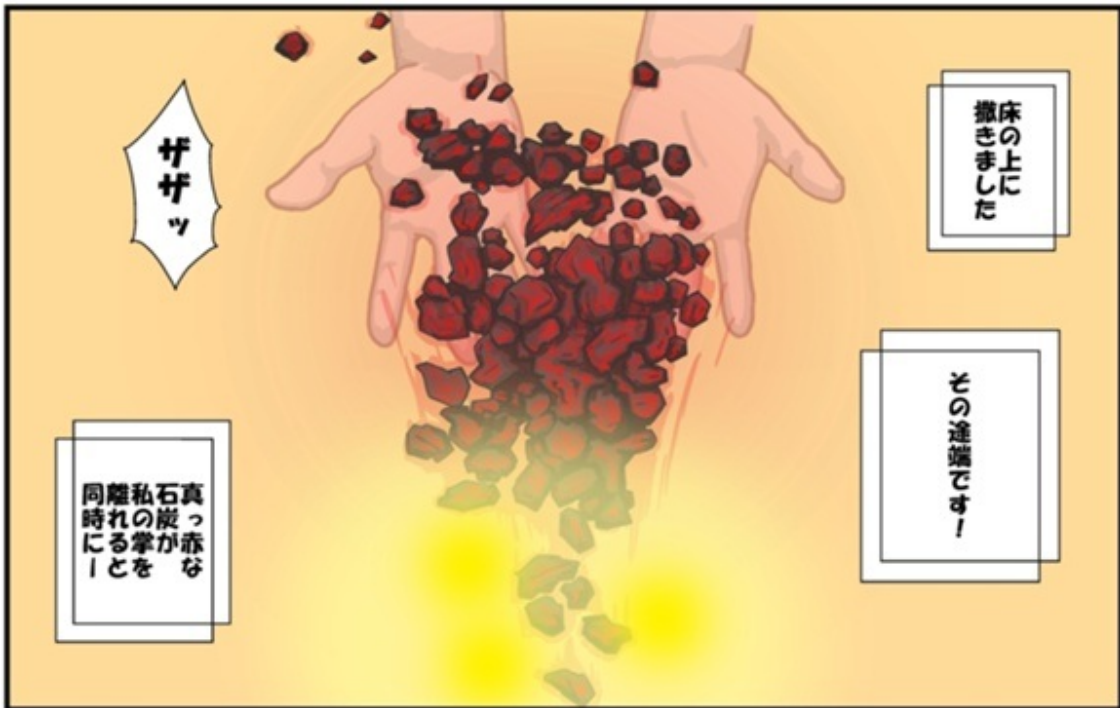


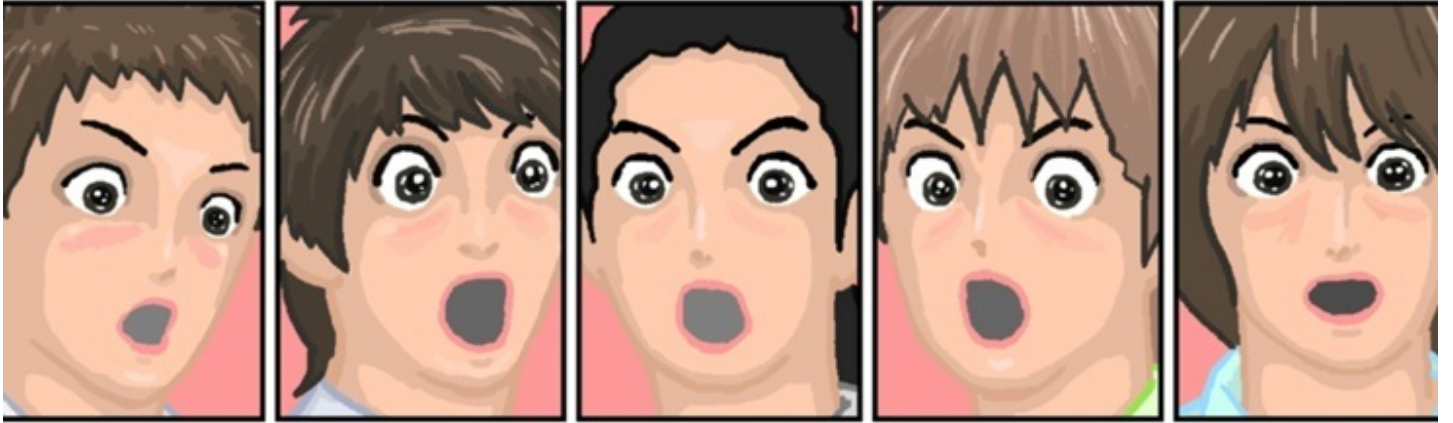






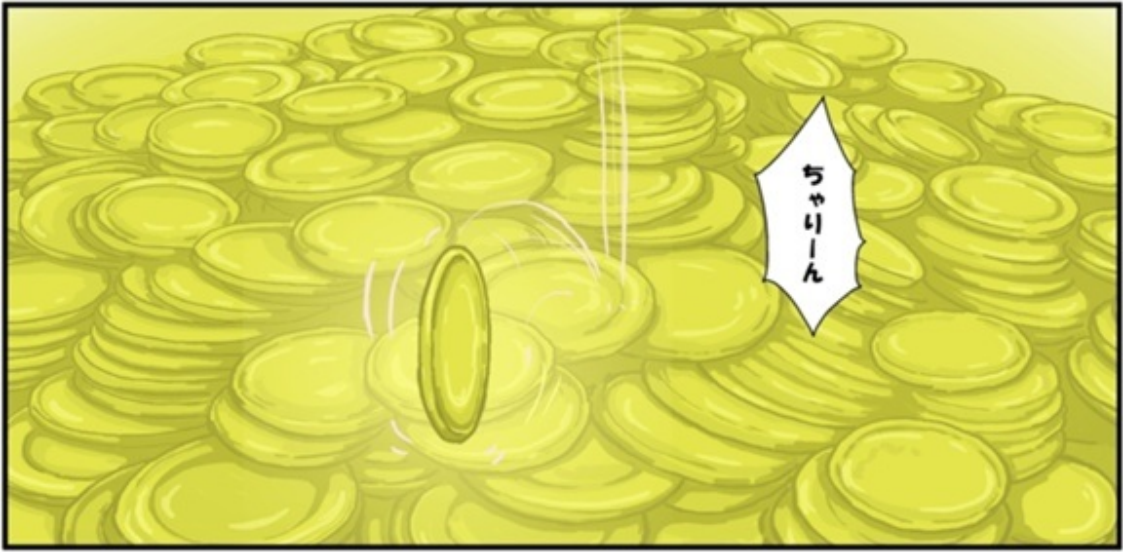
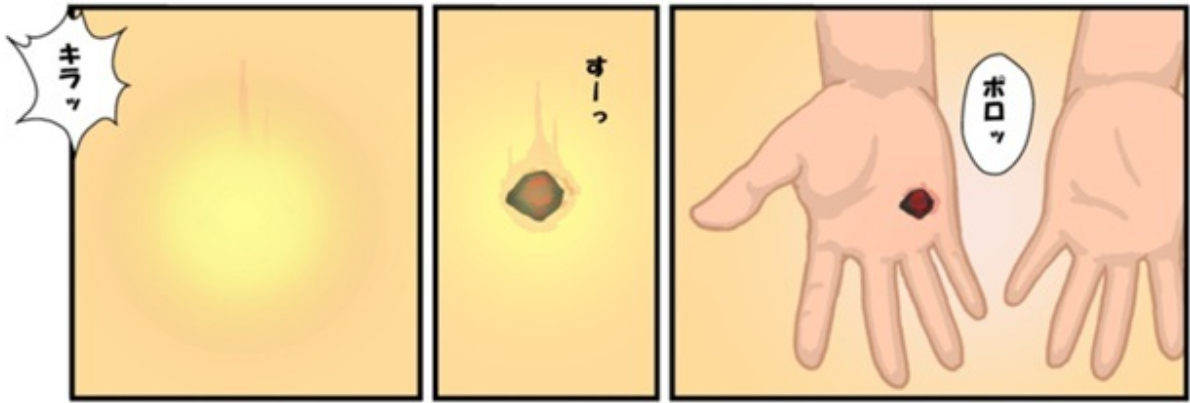


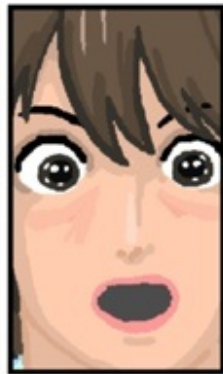
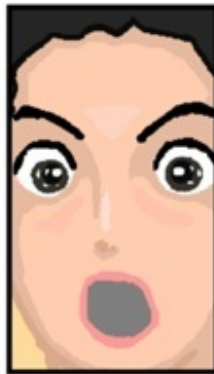
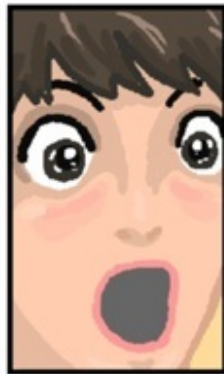




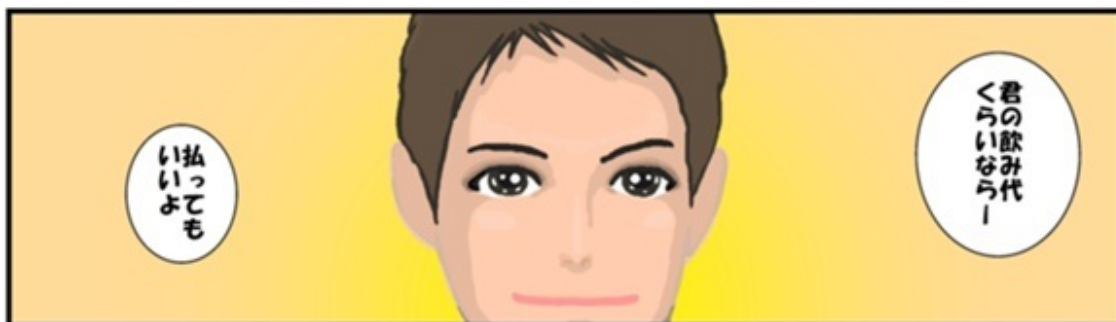
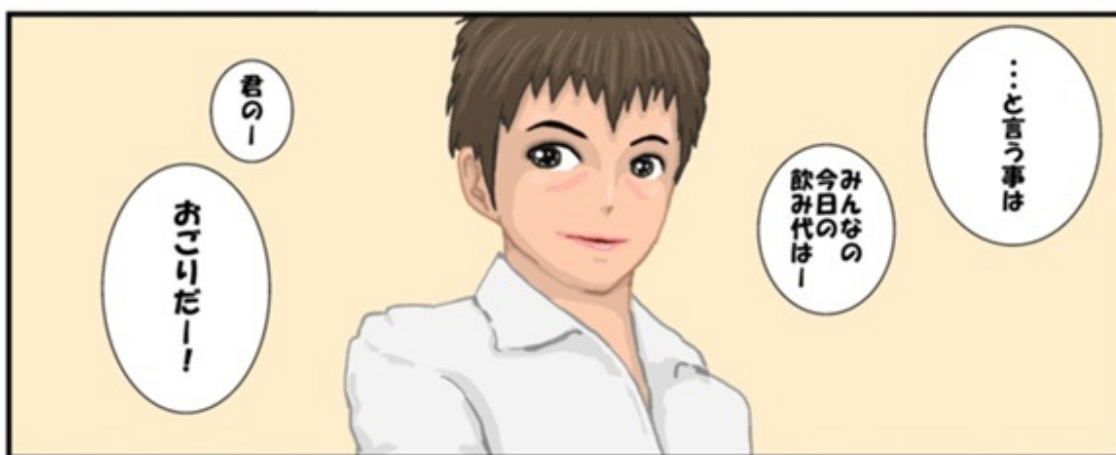
呆然と
していました

みんな
あらくほ…

















それでも
私は首を振って
彼の提案に
賛成しようとは
しませんでした



ふふふ！
やっぱ！
そうかい！
君が僕たちと
カードを
しないのは

その金貨を
僕たちに
取られたく
ないからだろう？

それなら
魔術を使うために
欲を捨てたと
言うのは！
嘘じゃ
ないのか！



それに！

これだけの
金貨を

みんなの前に
出しといて

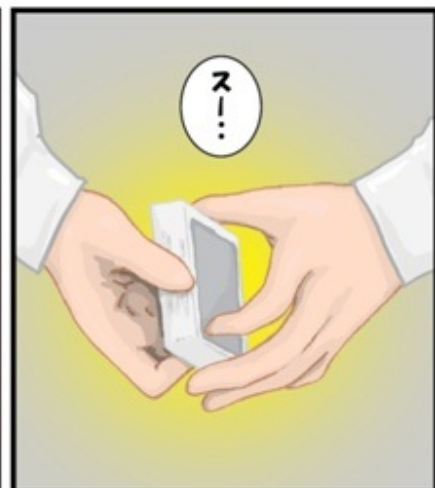
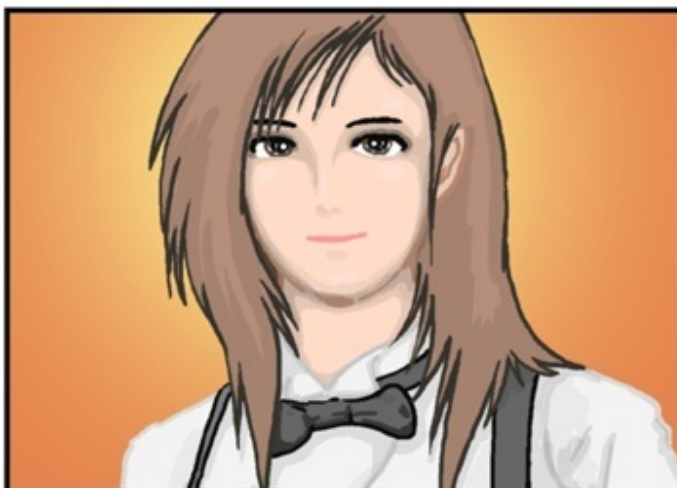
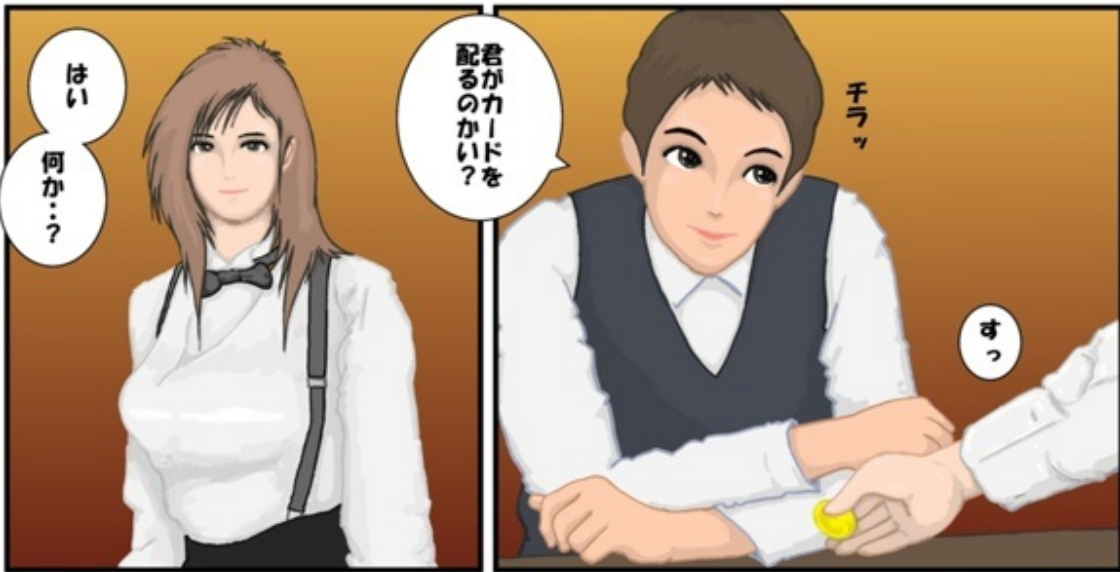
直ぐまた
石炭に
戻すんじゃ！

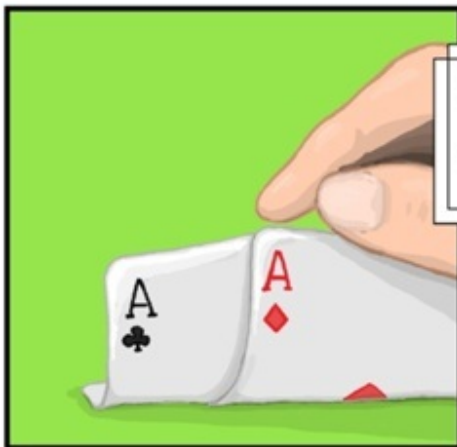
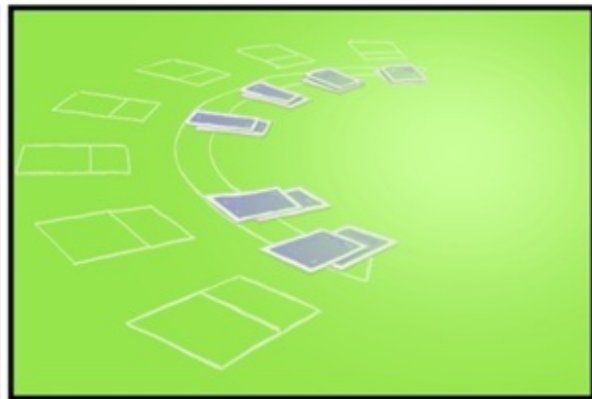
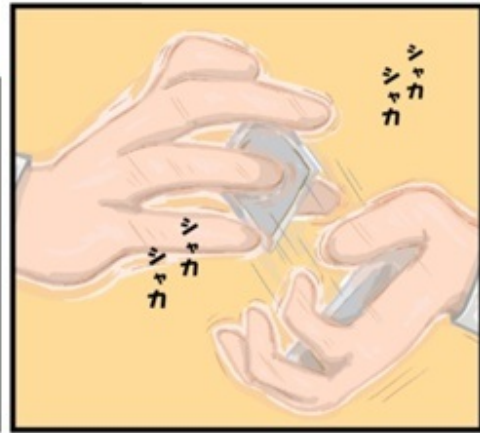
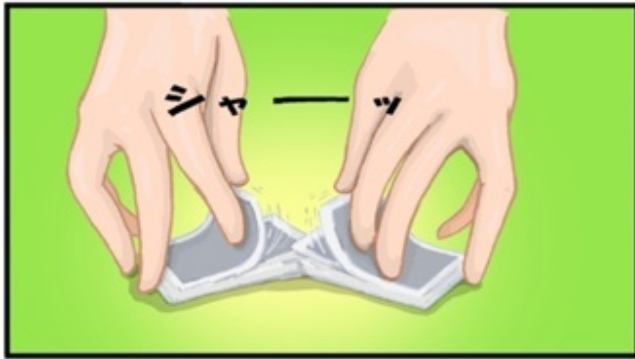
みんなの
お持ちの
おさまが
ないか！
いい



わかったよ…

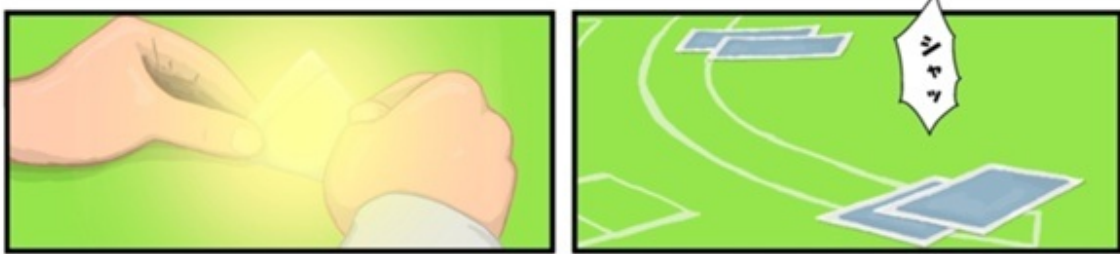
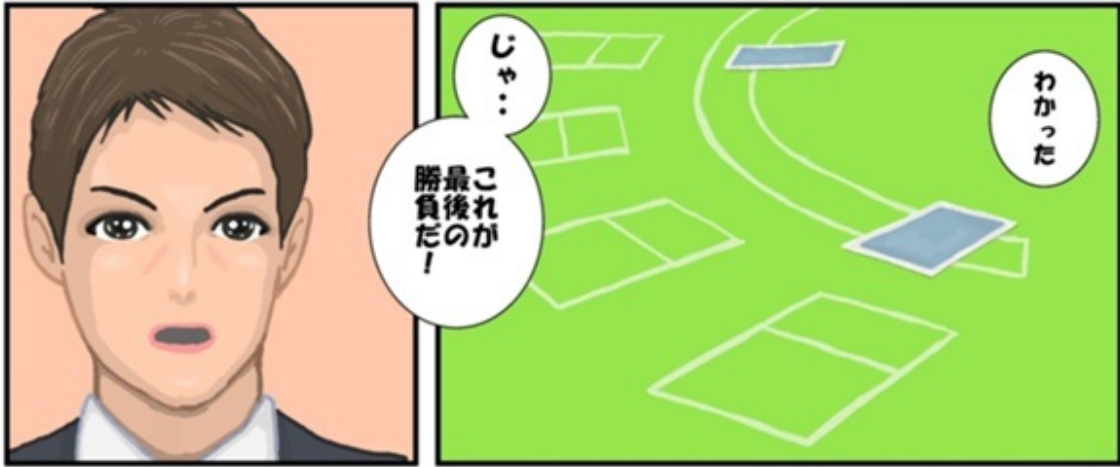
勝負しよう



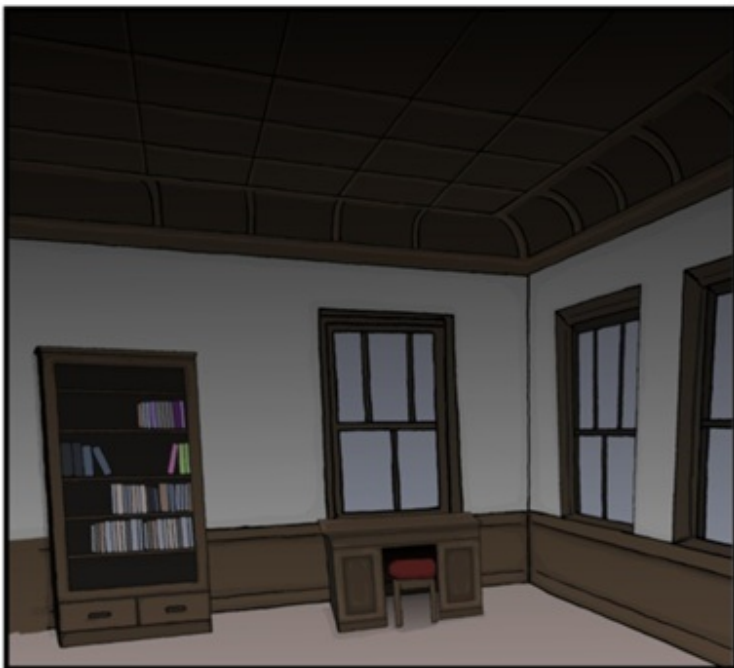
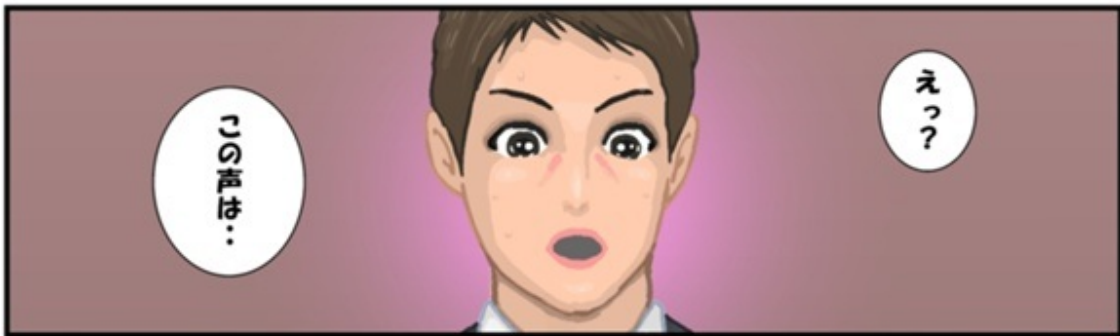


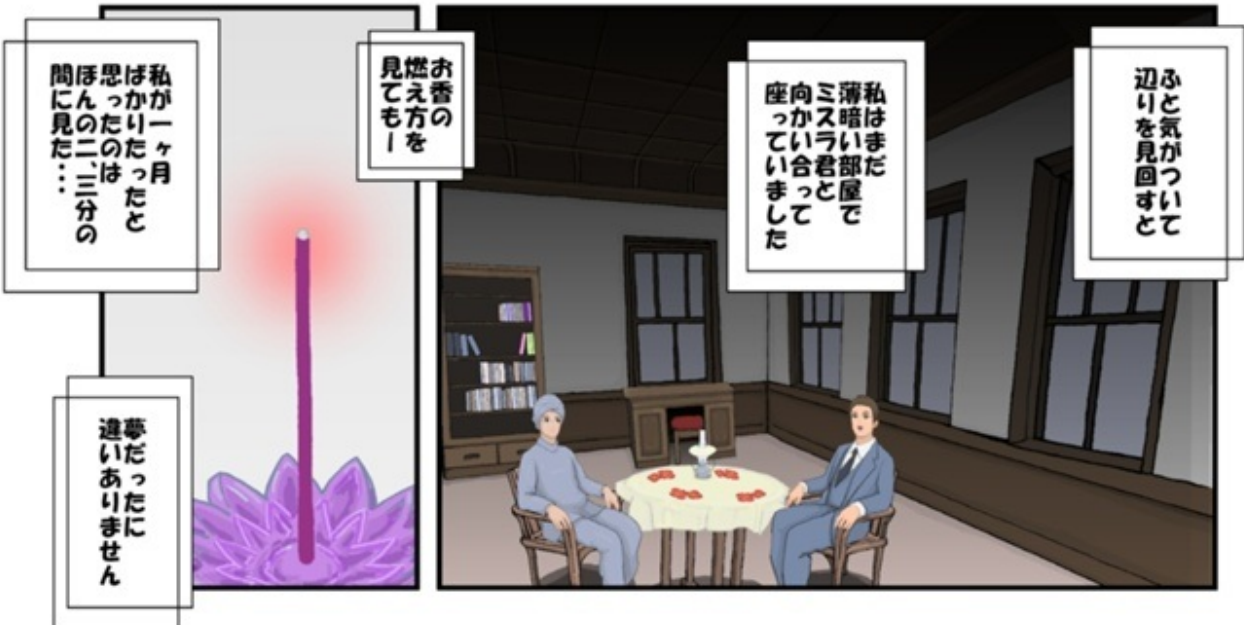
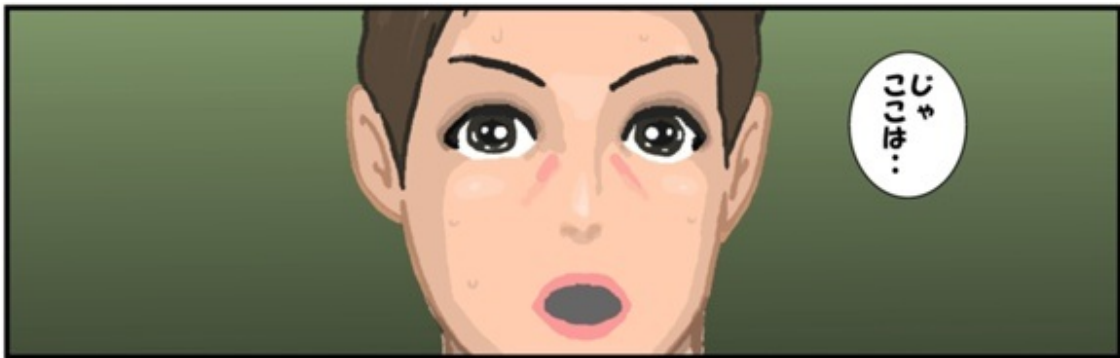
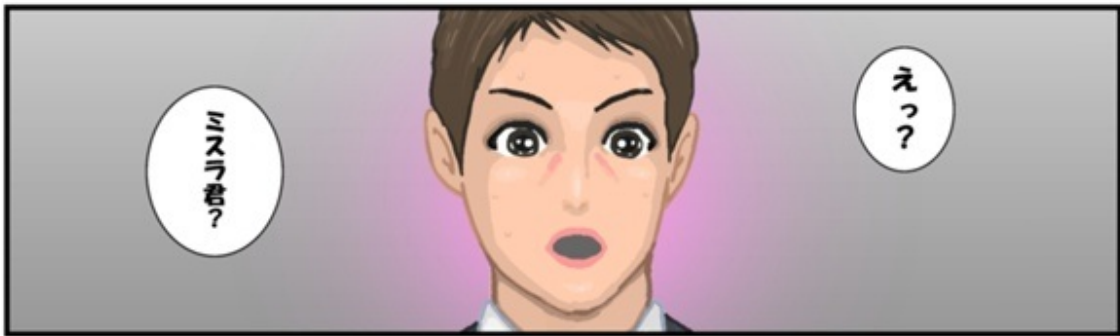


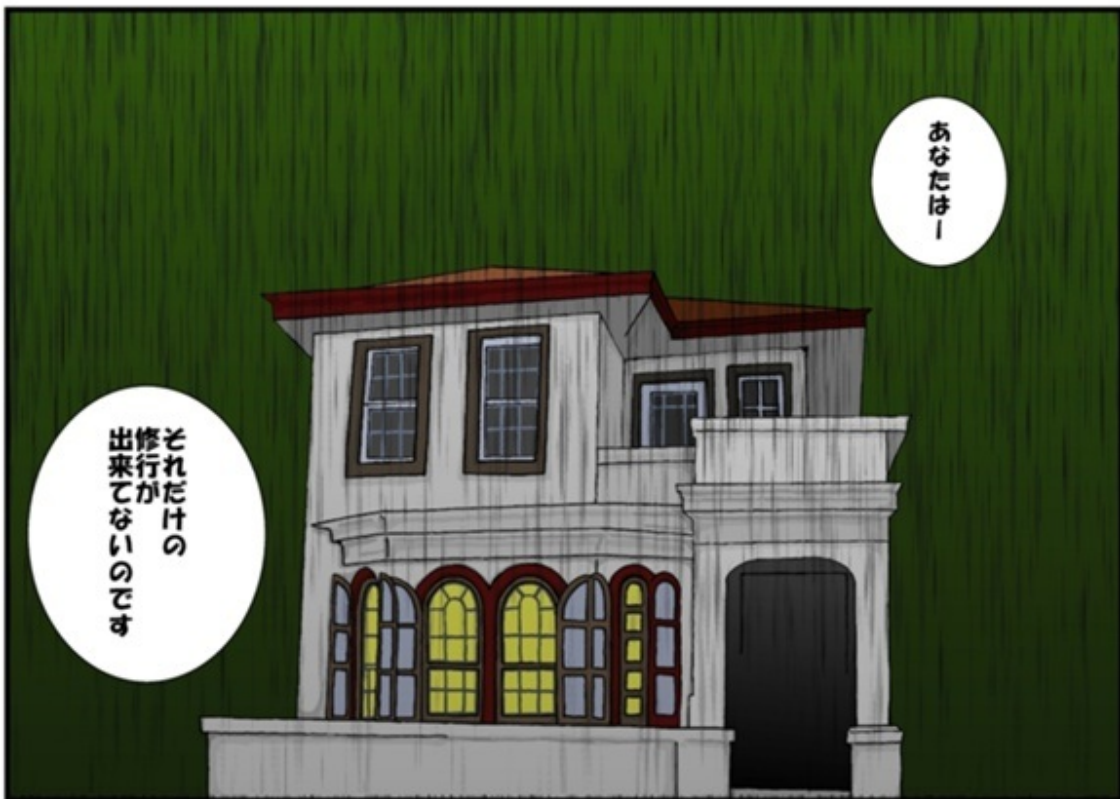
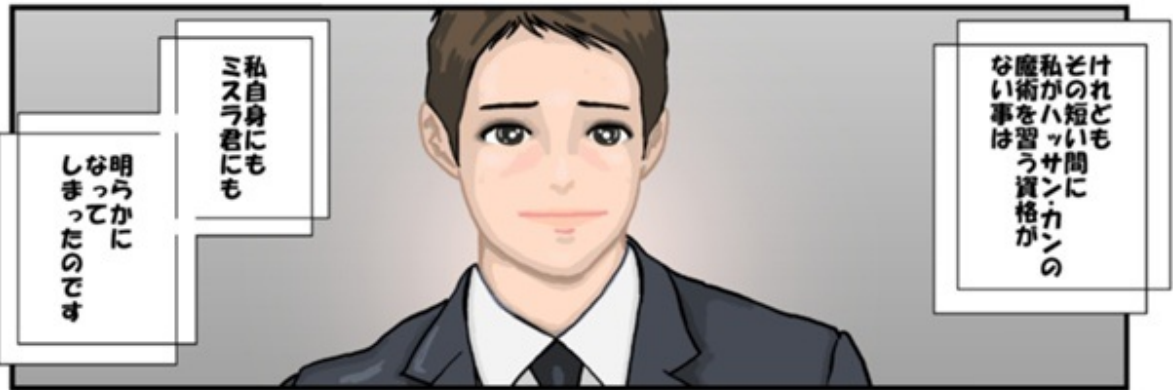












とまあええ終り…

魔術

<http://p.booklog.jp/book/29207>

著者：夏野 海

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/natunoumi/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/29207>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/29207>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.